

毎日が濃すぎて...  
 楽しくないワケがない!!

# アジアクロスカントリーラリー 2017

# 参戦記

タイ国内約 2,000km を、コマ図だけで走破するアジアクロスカントリーラリー。マシントラブルや、夕方スコールに打たれたり、道に迷い途方に暮れたり。しかしそんな数々の苦難も楽しい思い出に変えてしまう、この魅力。本誌編集長ワタクシ宮崎が、4年目のチャレンジに挑みました。今年はいろいろありましたが、相当濃かったです！ 来年はあなたもぜひこの世界へ！

PHOTO / AXCR フォトグラファー (高橋学、小原賢晃、西山和俊、芳澤直樹、榎本喜昭、田中善介、Fred&Harold)、大崎徹、ライダーの皆様、宮崎大吾  
 TEXT / 宮崎大吾

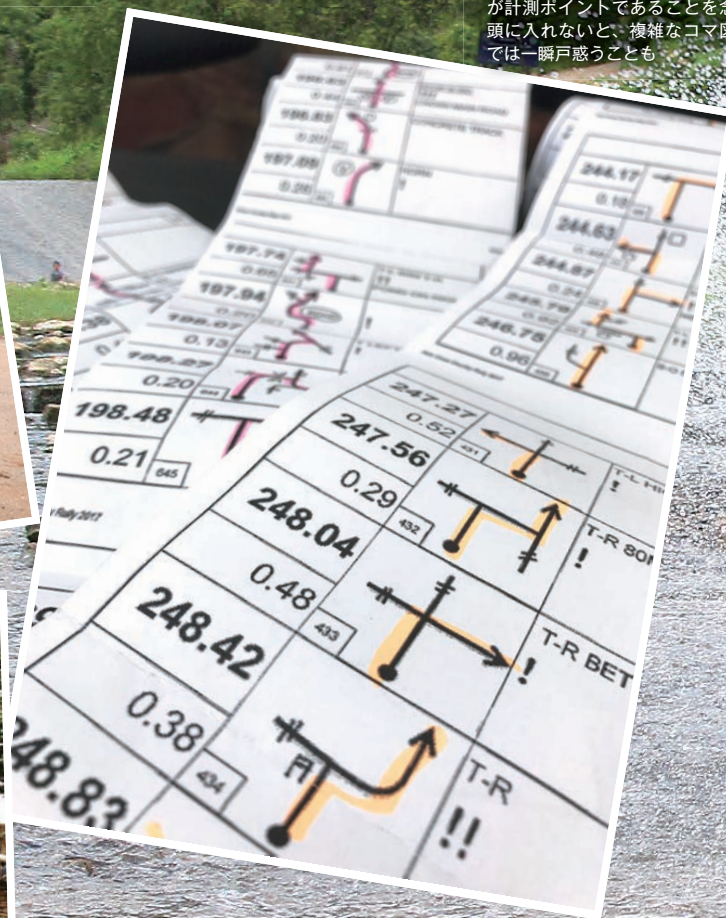
細かい分岐が多く、膨大な長さのロードブックがAXCRの特徴。200km以上のSS、集中が少し途切れるとミスコースなどトラブルが待ち受ける。絵の中の●が計測ポイントであることを念頭に入れないと、複雑なコマ図では一瞬戸惑うことも

第22回 FEDERAL VESSEL  
 アジアクロスカントリーラリー2017

- 2017年8月13日~19日
- 開催地 / タイ (アユタヤ-カンチャナブリー-ナコンサワン-ベツチャブーン-バクチョン-アユタヤ)
  - 主催 / R1 ジャパン・オルティブタイランド
  - 公認 / FIA, RAAT, FMSCT
  - 協力 / タイ国政府観光庁
  - 冠協賛 / フェデラルコーポレーション、ベッセル
  - 協賛 / 古河電池、PROPAK、中央自動車大学校、RYUPARA
  - 公式URL / <http://www.r1japan.net/axcr/>



最終SSのフライングフィニッシュ地点は、ある意味セレモニーフィニッシュより感動的。終わった瞬間に訪れる安堵と喜び！思わずハグする金子太さんと坂本武嗣さん



古都のアユタヤは遺跡が多く、観光客の姿も、日本と異なり色彩が派手な寺院より、遺跡のほのかなんとなく心が落ち着くのは僕だけでしょうか



本誌宮崎編集長  
**Husqvarna 701 ENDUROで**  
**4年連続完走!**

宮崎大吾  
 本誌編集長、46歳。2014年からAXCRに参戦。ラリー参戦は年に1度のAXCRのみですが、毎年趣向が変わり、飽きることがありません。苦楽を共にする仲間が増えるのもたまらなく魅力を感じます



4年目にして最大の苦戦  
 なすすべもなく転倒

初めてAXCRに参戦した2014年。僕に主催者はこう話してくれました。「ラリーは1回、2回でわかるようなものじゃないんです。なぜなら、毎年変わるものだから」と。その言葉の意味は、年々僕の中に大きく響いていきました。毎年僕はAXCRに参戦取材していますが、毎年、なにもかもが違っています。それはコースの設定だったり、距離、走る風景や路面など主催者の意思によるものもあれば、天候など自然がもたらすものも、参加メンバー、自分のマシンやコンディションなど主体的なものもあります。

2015年はチェンマイを起点とした山岳ルートで、「一部ナビゲーションが困難なジャングルや、異常に滑る赤土エリアなど、走り応えが満載でした。2016年はカンホニアの高速タート中心でしたが、最終日の腰まで浸かるようなウォーターベッドなど、気が抜けない印象深いルートでした。

昨年のMOTOKラス参戦46台に比べて、今年は23台と半減しました。近年のラリー人気やイベントが多彩になっていることもあり、いろいろな要素があると思いますが、僕はAXCRにまたライダーが集まってくると思います。今年初めて参戦したライダーは、みなAXCRの魅力にハマリ、「来年も出たい!」と口を揃えていますし、なにしろ、今年のラリーが楽しすぎましたから!

そう、今年のAXCRは僕が過去3年間に体験した要素がすべて凝縮されています。プランテーションや田畑、ジャングル、高速タートにウォーターベッド、そして川渡りにガレ場。正直僕にとっては最もタフなラリーでした。

いきなり今いる地点がわからなくなるのが、AXCRの魅力でもあり、おそろしいところ。正しくマップを進んでいるつもりですが、謎の(笑)分岐が出てくる。これ、正しく進んだライダーに言わせれば謎でもなんでもなく、マップは正しいんですが、「こんな分岐マップにないぞ?」と考えた時点で頭の中が「?」に。そんなとき、ヘテランの福村先生は、日影で立ち止まって確認するんですが、僕はその場でバイクを停める。ほんの1分ほど思っているうちに、そういうのが積もり重なり、拳げ句の果てにその場で水をゴクゴク飲んでるとヤバイです。

初日LEG1、車高を落としたり701エンジンポートでの初ラリーというところもあり、慎重に走り始めますが余裕のハワリで前半100kmのSS、序盤の高速区間が気持ち良く、快調。「レ、いけるぞと。しかし、途中から一気に道が難しくなりました(この模様はウェブで動画を公開中)。それでも奇跡的に? 坂本さんと前半SSを切り抜け、ジャンサポットのサービスイリアをあとして、さあ後半!と意気込みみましたが、実はこのページの写真の川渡り直後にやらかしました。カヌーが勢いよく進んで、ジャンサポットが上りスラッシュ!。そして先をいくライダーの後についていてしまったのですが、それが重大なミスコースでした。

一緒にいた福村先生は薄々おかしいと気づいてたようですが、僕はまったく記憶がない。あとで動画を見ると、右に曲がらなくてはいけないところが、気持ちよく直進してしまいました(笑)。おかしいと思いつつ一度川のところまで戻ったんですが、何も疑わずまたもや直進。これで完全に道を口スト(自分がかどこにいらるか分からない状態)になり、暑さで集中力がとぎれ、ぬかるみで転倒。その様子を後ろで見ていた福村先生がドクタイストップをかけたのでした。

# 落

のっけからイメージ悪いテーマですが、僕だけでなく、ライダーのみんなにとっては実にいろいろあった今年のラリー。それでも復活するのが感動的なんです



ジャパンサポートの大崎さんがカバーをエポキシパテで埋めてくれた。ポタポタオイルが滲むもの、なんとか最終日は走行できました



少し離れるとまったく見えないこの岩。なんと僕の直後に、小柳さんもシフトレバーを曲げてしまったのです



バイクが落ちてます。。栗冠さんによると「気持ち良く走っていて、分岐があったので地図を確認しようと目を離れた直後に緩やかな左カーブでコースオフ。そのあと路肩があるように見えたので草むらを通り復帰しようとしたら、道の下を通る土管の所路肩がなく落ちてました。10分後に坂本さんと金子さんが来られたので3人で引き上げて無事復帰しました」とのこと。よくぞご無事で！ 昨年小野さんのマシンを引き上げたのを思い出しました

あなたはお気づき  
だろうか？

## SS4で痛恨のエンジンヒット。 魔の一瞬の判断ミス!



調子良く走っていた4日目のSS4。マップを見た瞬間に路肩の岩に気づかずエンジンを直撃。ジェネレーターカバーに穴を開け、オイルが吹き出てその場でストップ。ついに痛恨のデリタイヤを喫してしまいました。のどかな青空で待つこと3時間。思わずブルハの「青空」を口ずさんでました…

本当に  
スマミセンでした!



主催者に連絡したらスパーを手配していただきました。まず飲み物やバナナを手渡されて助かりました。AXCRはスタックが明るく、すごくタフで、こちらも元気にになります



## 坂本さん、あなたも…

いつも賑やかな坂本さん。ホテルのタオルを汚して500パーツ請求されたり、なんかやってくれます。補習用のデブコン分けてもらい、ありがとうございます!

初めて笛が役立ったと坂本さん。「田んぼに落ちました。笛吹きながら助けを呼んで歩いたのですが、みんなミスコースして反対側の道から来て、ようやく福村先生が助けてくれました」



## シフトペダルも 現地調達(製作)!

僕と同じ岩でシフトペダルを根元から曲げてしまった小柳さんは、現地のバイクショップで修理。タイの修理屋の腕はかなり高いので、最後まで諦めないことが肝要ですね! [3時間位頑張っただけで直してくれました。多分タイカブが何かのシフトペダル。根元は古い何かのキックアームです(笑)。最終日は壊さず走れたので、結構しっかりしてました!]

当然福村先生も同じ気持ちでしょうし、その後、帰国後も二人で何度もこの日のことを話しましたから、よほど心に刻まれる日でした。先生はその夜寝ながら、ミスコース地点を反復していたそうです。

「後ろから見ていたら、何の踏ん張りもなく倒れていったら、止めさせたよ」と福村先生。木陰に入り、頭を冷やして塩飴をもらいました。気づけば僕は水を2L飲み干して、それも焦りを助長していました。いつもなら、何とんでもオンコースに戻ろうとしたし、戻れたのだけど、この日は朝から迷いすぎて、体力気力ともに使い果たしてしまいました。近くに県道らしいものがあったので僕はGoogleナビを使い、福村先生と共にホテルへ直帰。あと30数kmの所まで来ていたし、二人とも道をロストしてリタイヤするのは初めて。これ以上走らなくていい安堵と、無念さがこみあげます。

## 失敗を積み重ねて、それでも ゴールを必死に目指す

「何がいけなかったのか、反省会はずきません(笑)。」  
2日目もまた山の中で彷徨いかけたままでも、ジャンプではなく気温も高くない。落ち着いて元の位置に戻り、1コマずつ確認しながら走ると、左に曲がることを直進してしまいました。動画で振り返ると、一瞬躊躇していますが、間違えた方向に進んでいます。他の多くのライダーも同じことをしているの、これも反省反省!  
そして3日目も大混乱。コマ図にないT字とマーカーに、みな右往左往。なんとトップライダーの江連さんさえも間違えたというのだから、ラリーの道は奥が深い。散々迷ってわかる地点からやり直したら、なんのことはない、コマ図に書かれていないだけでした。つまりコマ図はなくとも、距離をちゃんと見て、マーカーどおりに進めばよかったです。いい勉強になりました。  
前半は高速タート、途中水たまりの草原を突き抜けて快走していた4日目、一瞬マップを見たときに、路肩に岩にエンジンを直撃。その後のことは上に書いた通りですが、ホテルまでの帰りの車中、主催者が何人かのトラブルを抱えた競技者からの連絡を受け、すぐに判断、対処している所を見ることができました。努力を厭わないタイの人たちのマンパワーもあり、迅速な対応で競技者が守られている、そんな気がしました。  
畑の木陰でスパーを待つ3時間、通り過ぎる地元の農民は、みんな心配そうに話しかけてくれました。水もくれました。今年もまた、僕はいろいろな人に助けられてしまいました。いつか人のためにできないだろうか、そんな気持ちにもなってきました。

道をさまよいながらも、  
確かに前に進んでいる。  
ラリーは人生の縮図だ



ラリーの魅力に取り憑かれた時計デザイナー、小野拓哉さんと、道を確認しあう僕。こんな写真を着に飲めそう。一瞬一瞬が貴重で忘れたいAXCR



今回初めてHusqvarna 701ENDUROで参戦。ハスクバーナ東名横浜オリジナルのローダウン加工やウインドスクリーン、アクラボヴィッチのスリップオンマフラー(純正オプション)、ハンドガード、リアディスクガード、エンジンカバーを装着。タイヤはAXCRでは初めてIRC VE-33を装着しましたが、どんな路面でもグリップし、耐久性抜群なので、なんと1回交換しただけでした。燃料タンクは13L、GiantLoopのサイドバッグには計4Lガソリンを積載しましたが、毎日の300kmほどのSSでは予備ガソリンの出番はありませんでした。エンジンオイルはあえて無交換(1万kmごと交換のため)、整備時間の短縮が余裕のない僕を助けてくれました。重量はレーサーよりもありますが、シート座面が広くてリエンジンが快適。胸のすくような加速で高速区間は最高でした。ガレ場も問題なし。マルチなバイクとしてオススメできます

# 走

初日から347.73 km、287.88 km、414.24 km、421.42 km、384.16 km、288.16 kmと、約2,000 km走ったAXCR。膨大なマップは2分割しないとホルダーに収まりませんでした！

分岐の細かさがハンパないAXCRは毎日お腹いっぱい走れる！



P.57で田んぼに落ちていた坂本さん。面白ネタを提供してくれるキャラですが(笑)、走りは格好いい。今年は初日は僕と道に迷ったりしましたが、その後は順調で、11位フィニッシュ！ ダースホステッカーサンキューです



これは僕ですね。701ENDUROはコーナー脱出の加速性能が抜群。しっかりトラクションして安定感が高いです。アクラポウィッチマフラーと、湿式エアクリーナー(純正オプション)も効果高し



TT600で参戦の田崎さんは元気な60代。エンジンのかかりが悪い旧車ながら、元IBの胸前が流石で、リエゾン、SS共についていけないことも多々ありました。ラリーを謳歌されていました

大会の冠協賛でもあるVESSEL。ジャパンサポートのサービスタントにも機能的なハンドツールが並べられていて、ライダーの要望に応じています。携帯にも便利！



## 一筋縄にはいかないAXCRだからこそみんなの顔が輝いている

# 人



ナリサラさん、ありがとうございます！

安堵や喜び、焦りや必死さ。人生と同じく一筋縄にはいかないラリーだからこそ、とても素敵な顔に出会える。AXCRは国籍を超えて、みんな同じゴールを目指しています

台湾の美人タレントのロズリンさんも、AUTOのドライバーとして毎年参戦。畑にたたく僕に唯一「Are you OK?」と声をかけてくれたAUTO選手。惚れるわ〜(笑)



現地に住むスウェーデン人フレディも、毎年一緒に走る仲間。今年はLEG2で半日一緒に道を探しました。こまごまときは共同作戦！

タイのOLさん、ナリサラは普段はエンデューロに参戦中。初のAXCRながら、CRF250L(テクニクスチューン!)で見事完走。ステイナ走りでもミスがなく、ナビも的確。最終日は僕や福村先生たちオジサンが、ナリサラの後についていきました(笑)

### 今年の注目、サイドカー！



ウラルの2駆(URAL Gear Up)で公認外ながら出走を果たした岩本・渡辺さんチーム。最後まで存分に楽しんでいました

インドネシアから参戦のKADEX(左)とRUDY(右)も、毎年顔をあわせるナイスガイ。KADEXはほんといい人で、「701はこう走ったほうが良い」とか、いろいろ教えてくれる。ルディとは、よく道をすれ違いました(どちらかがミスコースしている・笑)



ナイスガイなチームインドネシア



初参戦の木村さん。めちゃめちゃAXCRを堪能していました。今回初参戦した日本人は、皆さんAXCRの魅力ハマりましたね〜

今まで一番キツかったけれど、もっとも充実していたかも。その夜大崎さんはテブコンを使って補習してくれたのですが、翌朝に確認したところオイルの漏れが想像以上にあったので走行を断念。走れないのは悔しかったですが、一方、いつか他のライダーのために役立つたかったので、大崎さんとジャパンチームサポートに回ることにしました。ラリーは競技者だけでなく、サポート隊やメディアも専用のマップで目的地を目指します。朝はみんなのガソリンや冷たい飲み物、食料、氷など、ライダー目線で「自分が欲しいもの」を揃えていきます。そして準備が整ったサービスタントにライダーが続々と到着。ゴーグルを拭いたり、マップ巻き直して手があかないライダーのために食べ物や水を口に運んだり、そんな体験も貴重でした。大崎さんだけでなく、リタイアしたライダーに達して今更だに世話になってきましたから、ちよっと嬉しかったです。その夜に再びオイル漏れを修理してもらい(いつもありがと、大崎さん)、最終日はダマシマシながら、出走。ナリサラさん達と楽しくフィニッシュ。最終日は朝から寂しさとか独特の雰囲気もいいものですが、フライングフィニッシュに飛び込んだときの安堵感と達成感も格別。ナリサラさんも嬉しそうだったし、転倒を引き起こした僕たちに感謝してくれたみたいで(僕らも彼女の確かなナビに助けられて感謝してたんですが)、帰りのリエゾンで飯や洗車をおごってもらっちゃいました！

エンジンヒットの影響で充電不良だったらしく、ゴール2km手前で停止し、FBバッテリーに交換してアユタヤへ戻りました。いつもよりきつかった、苦しかった今年のAXCR。それでも今更だに一番充実していたかもしれません。他のライダーの充足した顔を見ると、あながち間違っていないと思う。来年、僕も出走して、良いラリーをしようと思います。来年はバタヤ・カンボジアの全く新しいルートを予定しているそうですよ！

今まで一番キツかったけれど、もっとも充実していたかも



もう一人サイドカーが絵になる(?)男、善さん。二輪メディアとして毎年帯回しているんですが、この人の毎日の取材活動を集めたくらい「ラリーな男」。同業者だからわかる。マジスコイ



開発責任者、自ら出走！



どんなに苦しくてもへこたれない、くじけないうし計職人、小野さん。昨年、今年と、夏の鮮烈な思い出を共に作ってきました。4日目は僕のネックプレスを貸したら「宮崎さんの魂と一緒に走るから！」だって。感動しました

- 小野拓哉さん YAMAHA YZ250FX
- 松本典久さん YAMAHA WR450F
- 坂本武嗣さん KTM 250EXC-F
- 金子太さん YAMAHA YZ250FX
- 木村智正さん YAMAHA WR450F
- 田崎博司さん YAMAHA TT600
- 小柳拓也さん SUZUKI DR-Z400S
- 杉山栄治さん HONDA CRF250RALLY
- 栗冠真平さん KTM 500EXC
- 牧田哲さん HONDA CRF450R
- 福村久澄さん KTM 300EXC
- 江連忠男さん YAMAHA YZ450FX
- 池町佳生さん KTM 350EXC-F

2017AXCRに参戦した日本人ライダー！



初年度から毎年参戦中!

# 福村久澄"先生"が語る AXCRの魅力



三浦海岸近くの「三浦歯科医院」の皆さん。息子さんもエンデューロライダーなのです。歯でお悩みの方はぜひ! (三浦市南下浦町上宮田木の問1486-1 <http://www.dental-miura.com>)



顔が似ていることから「先生のタイの息子(笑)」と言われるSumaeteerさん。タイの従足ライダーで、毎年この2ショットを撮影するのが僕の定番

**毎年笑い話がつきない。年齢差も関係なく仲良くなれるんです**

「AXCRを走るきっかけは、(友人の)石井進さんが主催者から誘われて自分も参戦したことです。初年度はB.A.J.A.の感覚で「地図なんていらぬ」とマップホルダーも持たずに参戦したもので、大変でしたよ。そのときはスタート順の関係でタイのトップライダーとスタートできたので、彼らについていけばよかったんですが、そのために順位も良くて、3日目くらいに欲が出てぶっこんだ。腕を怪我して、地図もないし、最下位

スタートで不安でしたが、なんとか勘で走りまわりました。舗装路は轍がないので、大変でしたね。翌年からホルダーをつけて走りましたが、まだ二輪の台数も少なく、最後尾からのスタートだから孤独だし、必死でした。

そんなAXCRですけど、頭を使うのが面白いんです。B.A.J.A.のような長距離スプリントとも違うし、モトクロスのようなジャンプもない。エンデューロも最近では高速になっていますからね。ラリー

は上位を狙わなければ、ちゃんと走る。それに、他の競技以上にみんなと親密になれます。初対面でもそんな感じじゃないんですよ。年齢差も関係なく仲良くなれる。歳をとっても走れる競技だと思えます。

昨年は最終日に土に埋めてあった土管でぶっ飛んでしまっ入院してしまいました。今年ハハビリを兼ねて無理なく走りました。それでも2回転倒したのが惜しかったです。リハビリは歩くだけじゃダメですね。スノボがいいです。6月からテニス始めて走れるようになってきました。スクーターで畑

の道とかコーナりの感覚を取り戻すのもよかったですね。

この歳(67歳)になると体力面ではやはりキツくなるので、無理しないことが大事なんです。道に迷ったときも必ず日陰で停車するようにするし、水の飲み方も宮崎さんに教えたように、ガブガブ飲むんじゃなくて、口の中にしばらく含ませて粘りをとると乾きにくくなるんです。ゴーグルを開けて風を送るとか、泥で汚れたブーツを、走りながら水たまりや草できれいにするとか、そういうのが効いてくる。初日に宮崎さんが何の抵抗もなくぬかるみで倒れるのを見て、

「ああ、もつダメだな」と日陰で休ませたんですよ。水も飲みきっちゃダメ。そういうする賢さも、自分で身につけてきました。

AXCR、なんてこんなに面白いんでしょ? ねえ。毎年何かか仕組まれている。道を間違えた初日、川の手前で距離を計測していたら間違えずに右の側道に入れたところを、人についていってしまっただけが失敗でしたよ。道に立っていった警備員も怪訝な顔していたもんな(笑)。松本さんは道に轍がないとき「自分が先頭だと喜んでたんですけど、僕は逆ですよ。不安になる(笑)。そういうのは金子君

と農村の民家にガソリンを分けにもらいに行ったら、すごく品の良い女性が出てきて驚きました。日本から来た我々に感動してましたね。毎年、いろいろな笑い話がつきないです。

AXCRは英語圏ではないので、単語だけで言葉が通じるので、精神的にも、時差も少ないし、タイは移動手段がちゃんどあるので便利です。人もみな優しい。僕のように日本でのラリー経験がなくても大丈夫です。

僕は70歳まで出ようと思っっています。石井さん(1歳年上)の記録を抜かないとね!



時々ガレ場もあります

SS2は初日のジャングルと打って変わり、笹やぶの山の中へ。前をゆくのはフレディ。この日はガレ場の登りや下りがハイライトですが、国内エンデューロに参戦していれば問題ない路面です。しかも後半はシルキーなサンド。いろいろな路面を満喫できます

こんなに旨い  
トムヤンクンがあったなんて



カンチャナブリの橋を超えた所のレストランで出会った、衝撃の一杯。これほどコクがあって美味しいトムヤンクンがあったとは! 見た目ほど辛くなく、ずっと飲んでいたスープ



サービスに徹した5日目。昼飯を食べられるのはサービス隊ならではの、ということで、適当に入ったパッタイ専門店。田舎道に突如現れたオシャレな店で、上品で美味



大崎さん、善さんとマツサージに行く途中で食した飯。魚を丸ごと揚げた料理が多いですが、どれもまた旨い!

# 食

タイと言えば、魅力あふれる料理の数々。ホテルのバイキングも良いのですが、少し足を伸ばして現地の美味を堪能するべき! 超絶旨いモノがたくさんあります



映画「戦場にかける橋」の舞台になった、カンチャナブリ、クワイ河にかかる橋。みんな歩いて渡るんですが、鉄道も通っているんです。映画は帰国後に観ましたが、反日というより反戦映画で、フィクションですけど、想像よりもちゃんと描かれていました



平和を噛みしめつつ橋を渡る!



毎年恒例のFB主催の大会前夜パーティ。今年はホテルに隣接した船内を貸し切りでした。残念ながら僕は参加できず